

ふりがな さくらい まさと

氏名 櫻井 雅人

1. 学歴

1968年 3月 東京外国語大学外国語学部英米語学科卒業
1970年 3月 東京外国語大学大学院外国語学研究科修士課程修了 (文学修士)

2. 職歴・研究歴

1971年 4月 東京商船大学商船学部助手
1973年 4月 東京商船大学商船学部専任講師
1975年 4月 東京商船大学商船学部助教授
1976年 4月 一橋大学経済学部助教授
1987年 4月 一橋大学経済学部教授
1991年 3月 ペンシルヴェニア大学客員研究員 (1992年 1月まで)
1998年 4月 一橋大学大学院経済学研究科教授

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

英語(), 民俗学 , 民俗文化論 , 英語科教育法, 経済英語

B. ゼミナール

学部前期, 学部後期, 大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

学部の講義は主として教養教育科目を担当している。英語 (外国語科目) では英文講読などであり, 受講生はおおむね 1 - 2 年生であるので, 学校英語から実際の英語への橋渡しになるような教材と指導を考えている。民俗学・民俗文化論ではビデオ・CD などを利用しながら英米を中心とした民俗文化 (特に, 民俗音楽など) を講義しており, 現在との接点をさぐるという立場を強調している。経済学部科目では経済英語を担当している。英米の雑誌の経済記事を教材として, 単なる訳読ではなく, 文章の構成・論旨の展開・背景的知識などの読解を目指している。大学院では各国経済思潮 (英米) を担当している。ここでは経済と文化に関するテキストを講読している。受講生が多くないときはゼミに近い形式で行うことがある。

学部のゼミナールは共通ゼミで, 全学部の学生を受け入れている。英米の民俗学・民衆音楽・英語学などの英文テキストを用いて, 分担して発表する形をとっている。大学院のゼミはその都度参加者と相談の上でテキストや方法を決めている。

4. 主な研究テーマ

- (1) 英語語彙論, 英語辞書論
- (2) 英米歌謡民謡論

(3) アメリカ民俗文化研究

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

Our English Songs-Teacher's Edition, 2 vols., 英語教育協会 (ELEC), 1971 年 (共編著)。

『英語辞書の比較と分析』(1 - 4 集) 研究社, 1980-89 年 (共著)。

『効果的な英単語の覚え方』ジャパントイムズ, 1983 年 (単著)。

『音韻・形態 (英語の演習・第 1 巻)』大修館書店, 1985 年 (共著)。

In Honor of Tokuichirou Matsuda, Kenkyusha, 1993 年 (共編)。

(b) 論文(査読つき論文には*)

「英語語形成の共時論的研究について」『東京商船大学研究報告 (人文科学)』第 22 号, 1971 年, 1-13 頁。

「Webster's New World Dictionary (Second College Edition) の分析 応用言語学的見地より」『電気通信大学学報』第 22 巻 2 号, 1971 年, 145-181 頁 (共著)。

「バラッドという用語について」『東京商船大学研究報告 (人文科学)』第 23 号, 1972 年, 19-32 頁。

* 「辞書の比較研究-EWD と Chambers-」 *LEXICON*, No.3, 1972 年 (共著)。

「チャイルド・バラッドの通俗版」『東京商船大学研究報告 (人文科学)』第 25 号, 1974 年, 61-75 頁。

* 「Oxford Advanced Learner's Dictionary の分析」 *LEXICON*, No. 4, 1975 年 (共著)。

「パーシー版"エドワード"の特異性」『東京商船大学研究報告 (人文科学)』第 26 号, 1975 年, 27-40 頁。

「英語の複合形容詞について」『言語文化』第 13 号, 1977 年, 32-54 頁。

「英語における受動文の派生について」 *Random*, 1977 年, 2-20 頁。

* 「COD 第 6 版の分析」 *LEXICON*, No.6, 1977 年 (共著)。

「"グリーン・スリーブズ"について」『言語文化』第 14 号, 1978 年, 83-92 頁。

「口承文芸としての伝承バラッド 研究の前提についての覚書」 *Random*, 1979 年, 36-47 頁。

* 「Longman Dictionary of Contemporary English の分析(1)」 *LEXICON*, No.8, 1979 年 (共著)。

"Some Remarks on the Definition of Japanese Balladry." *Hitotsubashi Journal of Arts and Sciences*, vol. 20, No.1, 1979, pp.43-50.

「民謡と民俗性」『一橋論叢』第 83 巻第 4 号, 1980 年, 90-106 頁。

* 「Longman Dictionary of Contemporary English の分析(2)」 *LEXICON*, No.9, 1980 年 (共著)。

* 「Collins English Dictionary の分析」 *LEXICON*, No.10, 1981 年 (共著)。

* 「Cambers Universal Learners' Dictionary の分析」 *LEXICON*, No.11, 1982 年 (共著)。

「バラッドの中のジョン・ヘンリー」『一橋論叢』第 88 巻第 1 号, 1982 年, 111-125 頁。

「セシル・シャープの民謡観について」『一橋論叢』第 88 巻第 6 号, 1982 年, 87-102 頁。

「"木々は高く" 非チャイルド系の伝承バラッドについて」『一橋論叢』第 93 巻第 1 号, 1985 年, 72-87 頁。

「中英語詩"ユダ"のバラッド性」『言語文化』第 22 号, 1985 年, 19-32 頁。

「"蛙の求婚"をめぐって」『一橋論叢』第 94 巻, 1985 年, 90-105 頁。

* 「学習用アメリカ英語辞書の比較と分析-LDAE と OSDAE-」 *LEXICON*, No.15, 1985 年。

"Non-Balladic Elements in the Middle English Judas." *In Honor of Shigeru Takebayashi*, ed. by N. Nakao et al., Kenkyusha, 1986, pp.477-490.

- 「黒人霊歌とその起源論争」『一橋論叢』第109巻,1993年,1-9頁。
- 「セシル・シャープとアパラチア民謡」『言語文化』第36巻,1999年,39-57頁。
- 「"ヴァージニア・リール"探索の記」『言語文化』第37巻,2000年,3-26頁。
- 「"藁の中の七面鳥"の系譜(その一)」『一橋論叢』第126巻第3号,2001年,229-241頁。
- 「"藁の中の七面鳥"の系譜(その二)」『一橋論叢』第127巻第3号,2002年,263-276頁。
- 「『カレドニアの陽気なミュージシャンたち』の諸版について」『一橋論叢』第129巻第3号,2002年,194-208頁。
- 「"アメイジング・グレイス"の起源と背景」『一橋論叢』第130巻第3号,2003年,169-187頁。
- 「"ナンシー・ドーソン"とその関連曲」『一橋論叢』第132巻第3号,2004年,195-211頁。
- 「唱歌集の中の外国曲 『小学唱歌集』を中心として(1)」『言語文化』第41巻,2004年,3-17頁。
- 「"旅泊"その他 外国曲からの唱歌4曲」『一橋論叢』第134巻第3号,2005年,319-333頁。
- * 「『小学唱歌集』のスコットランド曲」日本カレドニア学会 *CALEDONIA*, No. 33, 1-8頁,2005年。
- 「唱歌集の中の外国曲 『小学唱歌集』を中心として(2)」『言語文化』第42巻,2005年,3-13頁。
- 「"ニュー・ブリテン"から"アメイジング・グレイス"までの系譜」『一橋論叢』第135巻第3号,2006年,365-385頁。
- * 「賛美歌になったスコットランド歌謡」*CALEDONIA*, No. 34, 65-70頁,2006年。
- 「『讚美歌』および『讚美歌第二編』の不詳曲」『言語文化』第43巻,[1-13頁],2006年(印刷中)。

(d) その他

- 「Auld Lang Syne の普及」『蛍の光のすべて』(キング・レコード KICG 3075,ノーツ)2002年,20-25頁。
- 「ロディーおばさん アメリカ民謡としてのひろがり」海老沢敏監修『むすんでひらいての謎』(キング・レコード KICG 3077,ノーツ)2003年,30-33頁。
- 「"リパブリック讃歌"の誕生と普及」『おたまじゃくしと権兵衛さんのすべて』(キング・レコード KICG 3238,ノーツ)2006年,8-15頁。
- 「"アメイジング・グレイス"はスコットランド曲か」『日本カレドニア学会 Newsletter』,No. 27,2頁,2006年。
- 『スコットランド文化事典』(原書房)「唱歌の中のスコットランド歌謡」など3項目,2006年。

6. 学内行政

(a) 部所長・評議員等

大学教育研究機構長・評議員 (1996年8月-1998年7月)

(b) 学内委員会

教職課程委員 (1999年4月-2004年3月)

大学教育研究機構運営委員 (2000年6月-2002年5月)

7. 学外活動

(b) 参加学会および学術活動

日本カレドニア学会 (2006年9月より幹事)

(c) 公開講座,開放講座

「アイルランドの文化と歴史」一橋大学公開講座2002年(春)